

情報モラル教育の進め方

出典：情報化社会の新たな問題を考えるための教材
～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引きより

問題の本質

情報モラル教育の必要性は理解できても、指導する内容に自信が持てず、すぐに取り掛かれない場合がある。しかし、ネット依存、コミュニケーションのトラブル、ネット被害等問題の多くは、技術やサービス内容が進化して様々な問題を抱えているように見えるが、その本質はほとんど変化していないことが種々の研究で明らかになってきている。例えば、インターネット上のコミュニケーションのトラブルの原因のひとつが相手の理解不足であることや、ネットに依存する背景や構造がそれほど変化していないことなど、それぞれの本質を理解すれば情報モラル教育を適切に進めることができるようになる。情報モラルの大半が日常モラルであることを理解させ、それに情報技術の基本的な特性を理解させることで問題の本質を見抜いて主体的に解決できる力を身につけさせることが重要だといえる。

情報モラル = 日常モラル + 情報技術の特性の理解

何を教えなければならないか

具体的に情報モラルの指導では、「日常モラルを育てる」「仕組みを理解させる」「日常モラルと仕組みを組み合わせさせて考えさせる」という3つの視点が必要となる。仕組みについても、情報技術が進展しても変化しない不易な部分と、情報技術の進展によって変化する部分がある。何が不易であり、何が変化するものなのかという構造を理解し、これまで指導してきた内容と関連付けて指導することが必要である。

